

「3年・方位の探究 (10)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

子どもたちのリクエストもあって、完成した「地磁気地球儀」(子どもたちは「地球磁石」と呼んでいた)を、立派な地球儀と比べて、地名を書いたテープを貼る活動をすることにした。



「赤道」と「両極」を手掛かりに、自分が好きな外国の地名(都市や国名)を貼ってゆく。こういう体験はもちろん初めてなので、子どもたちは実に楽しそうだった。(地球儀に初めて触った子どももいた)



いつの間にか透明半球は、地名テープで一杯になっている。フィリピンとハワイがとなりになっている。あれ?カンボジアって南半球だったかな?ほかにも、

イタリアが赤道直下にあったり、スウェーデンの北にフランスがあたりと面白かったが、そのままにしておいた。一番驚いたのは、南大西洋に「トリスタン・ダ・クーニャ」のラベルを貼った子どもがいたことだ。ここは、「すべての陸地から最も遠い有人島」として知られる、イギリス領の火山島である



どの班も、一通りできあがったので、さっそく自分の方位磁針を地名シールの上に当てて、方位(磁針の振れ)を調べている子どももいた。「あ、日本に置くと、ちゃんと北が北極のほうを指したよ!」「モンゴルでも北を指すよ!」・・・あーだこーだ言いながら、非常に楽しそうだった。残念ながらこの日は時間切れ。ノートに記録をとる時間もなかった。木箱にしまって、本格的な「測定」は次回のお楽しみ。(つづく)

